

水沢市街地エリアプロジェクト「賑わい創出」に向けた事業報告①

水沢市街地エリアプロジェクトとは

奥州市未来羅針盤図に掲げるこのプロジェクトでは、水沢市街地エリアの狙いである「賑わい創出」「子育て環境の充実」「ウォーカブル空間の創出」に向けて、「メイプルリニューアル」「水沢公園リニューアル」「駅前周辺の賑わい創出」を開発コンセプトとしています。

駅前周辺の賑わい創出に向けて

水沢市街地の 新たな可能性を見つける シンポジウム



駅前周辺の賑わい創出に向けて、多くの市民のみなさんに興味を持っていたいきたいので、「水沢市街地の新たな可能性を見つけるシンポジウム」を開催しました。

100名ほどの参加者があり、多くの皆さんが水沢市街地の再生に興味があることがわかりました。これを機に、更に議論を深めていくために、ワークショップを企画しました。



シンポジウムの概要

開催概要

- 開催日 令和7年7月28日(月)15:00~17:00
- 場所 メイプル1階特設会場
- 内容 第一部 奥州市賑わい創造アドバイザー松本大地氏の講演「水沢市街地の全体最適な羅針盤づくりに向けて」
第二部 パネルディスカッション「私たちが考える水沢市街地の未来」

登壇者 松本大地氏(株)商い創造研究所 代表取締役

千葉恭義氏(水沢駅通り商店街振興組合 理事長)
梅田浩司氏(株)JAZZRIZE DESIGN 代表)
大和田順子氏(らいおん食堂 代表)

松本氏の講演内容

- 心が豊かになる「社会交流空間」が育つと、この街に住んでみたい、この街で働きたいという定住人口増へつながる。
- 現代の観光キーワードは「訪れてみたい、感動体験型観光」。「まち歩き」「食べ歩き」「ふれあい」の三要素は奥州市でも取り組める可能性が高い。
- 奥州市のローカル食の体験価値は、再訪したいというモチベーションにつながる。
- 訪れたい、泊まりたい目的型ホテルがほしい。

パネルディスカッション

- なぜ市が力を入れるのが水沢駅から水沢公園のエリアなのか？郊外に人が集まる場所が既にあるのでそこに力を入れてもいいのではないか？
- 駅通りはナイトタイムに注力をしてもいいのではないか。
- 駅通りには駐車場が少ないので、人が集まらない。
- 単純な資本経済ではなく、人間関係資本のようなカルチャーを含んだ豊かさを実現させたい。



水沢市街地エリアプロジェクト「賑わい創出」に向けた事業報告②

水沢市街地エリアまちづくりワークショップとは

対象エリアの賑わい創出のため、若い世代の地域住民や関係者を集めたワークショップを開催し、将来像やこれからまちづくりの考え方や方向性を議論した上で、今後の市の施策の立案等の参考にすることを目的とし、企画しました。

このワークショップには、エリアで活躍する事業者、関係団体、岩手県立大学生など、25名のメンバーが参加し、3回に分けて実施しました。



第一回WSテーマ「水沢駅から水沢公園を歩こう」

第一回目は実際にまちを歩きました。普段歩いているまちを、様々な視点から改めて見てみると、新たな可能性があることに気づきました。これからの新しいまちづくりのリソースを見つけることができました！



第一回WSの結果概要

開催概要

- 開催日 令和7年8月23日(土)10:00~12:00
- 場所 メイプル地下多目的ホール、水沢市街地エリア
- 内容 第一部 水沢市街地まち歩き
第二部 ワークショップ「街づくりのリソースを見つける」

各班の発表内容

●1班「歴史と食文化で発展する水沢」

奥州市の魅力的な食、青葉町のスナック街、歴史的景観や文化を大事にし、古いものを活用したまちづくりをしたい。

●2班「人が集まる水沢へ」

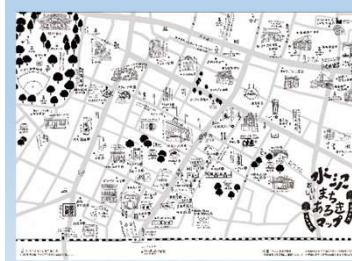
若者が集まる居場所がないので、サブカルチャーを大事にし、日常の賑わいを取り戻し、若者が集まれる場所を作りたい。

●3班「迷いたくなるまち水沢」

古い町並み、雰囲気のある青葉町、個性のある個人店など、魅力的なコンテンツがあるので、それを探して歩きたくなるような街にしたい。

●4班「五感で感じる水沢」

ライブハウスが多く音楽文化があること、ノスタルジックな街並み、多彩なモニュメントなど、見たり聞いたり食べたり、五感で水沢の良さを感じてもらえる街にしたい。



水沢市街地エリアプロジェクト「賑わい創出」に向けた事業報告③

第二回WSテーマ「水沢プロムナード構想」

第一回でまち歩きをし、様々な課題やリソースを見つけることができました。第二回では、実際、どこに、どんな機能がほしいかを考えるワークをしました。大きな地図にほしい機能を書いた付箋を貼って、みんなで共有することによって、どうやれば歩きたくなる、滞在したくなるまちになるかを考えました。



松本大地氏講演「水沢プロムナード構想」

- 水沢駅と水沢公園を2核に、連なる街路を1つのプロムナードとして一体開発する。プロムナードは主動線ながら、横道や裏道にも人を呼び込むまち歩きの楽しさを誘引する。
- 目指す方向は「MIZUSAWA NEO RENAISSANCE」
- 実現の方向は「官民連携によるウォーカブルな街再生」
- 定住人口、交流人口増の二刀流達成を目指す
- 水沢の街なかは共感プレイス

歩道や公共空間を「人々が安心して集い、過ごせる場所」に再設計する必要があります。
日常の中に「高い地域幸福度」をつくりだすことが重要だとアドバイスいただきました。



第二回WSの結果概要

開催概要

- 開催日 令和7年9月18日(木)18:30~20:30
- 場所 奥州市役所講堂
- 内容 第一部 松本大地氏講演「水沢プロムナード構想」
第二部 ワークショップ「地図に貼る！付箋ワーク」

各班ごとに発表した優先する提案(カテゴリ別)

- 食文化
 - ・焼肉店・焼き鳥店などを巡る「肉めぐり」
 - ・飲食店でのおいしい朝食の提供
- 公共空間・居場所
 - ・休める場所(テーブル、ベンチ)
 - ・公共施設が併設された滞在施設
- 観光・レジャー
 - ・公園・空き地のイベント活用
 - ・スケートボードパーク
- 商業施設
 - ・メイプルを交流拠点に
 - ・日常の買い物の場
- インフラ・情報
 - ・各名所の案内
 - ・デジタル連動の観光案内サイネージ



効果性と実用性の観点からの提案内容

- ローカルフードコート
- ストリートファニチャー
- 常設ファーマーズマーケット
- ライフスタイル型ブックストア
- 泊まりたくなるホテル

水沢市街地エリアプロジェクト「賑わい創出」に向けた事業報告④

第三回WSテーマ

「水沢市街地エリアの価値を高めるためにできること」

第三回では、水沢市街地エリアの価値を高めるために自分に何ができるかを考え、発表してもらいました。このワークショップに参加しているメンバーは、それぞれ想いがあり、何か行動をしたいと思っているメンバーです。この想いを実現するためには、共通の方向性が必要だと感じました。



松本大地氏講演「日常のハレは、地域の成長を作る」

- ・大きな祭り、花火大会、コンサートが無くても、どうしたら街に人が訪れるようになるのか？
- ・「**日常のハレ**」とは、日常の中に小さな「非日常」を取り入れ、ちょっとした工夫で普段の生活を豊かにし、毎日の生活に新たな楽しさを見つけること。
- ・地域幸福度 = **well-being**度の高い街づくりが選択肢になる。
- ・well-beingを支える三要素は、「**居場所**」「**役割**」「**つながり**」。幸福な状態、幸福な場所があることで、創造性が生まれる。
- ・プロムナード整備により、街なかを「開かれた社会交流の場」とする。
- ・開かれた場を実現する中間支援組織「**街づくりディベロッパー**」が必要。



第三回WSの結果概要

開催概要

- 開催日 令和7年10月16日(木)18:30~20:30
- 場所 奥州市役所講堂
- 内容 第一部 松本大地氏講演
「奥州市の未来は…」「日常のハレは、地域の成長を作る」
第二部 まとめ「メンバーから一言」

メンバーから一言(抜粋)

- 行政が本気になって街づくりに取り組んでいることが感じられ、とても嬉しかった。泊りたくなるホテルを目指して、もう一度頑張りたい。
- 「なぜ今力を入れるのが水沢市街地エリアなのか？」という疑問を持っている市民が多いと思う。水沢全体の中で、この駅通りに真に必要な機能をみんなで共有し、新たな街づくりの方向性を見つけたい。
- 10年ぶりに実家に戻って来て、水沢市街地の現状を見て本当に残念だった。何とかしたいと思ってこのワークショップに参加し、多くの仲間と繋がることができ、有意義な時間だった。今後もこの繋がりを大事にし、まちづくりに協力したい。
- 松本氏の「日常のハレ」という言葉に共感している。実現するためには街づくりディベロッパーの存在が重要になると思う。
- 水沢市街地には改めていいコンテンツがたくさんあると再認識した。今あるコンテンツを高めること、共有すること、発信することで、もっと魅力的なまちになると思っていく。

ワークショップメンバーの皆さん、本当にありがとうございました。



水沢市街地エリアプロジェクト「賑わい創出」に向けた事業報告⑤

ワークショップ参加メンバーアンケート結果の分析

1. ワークショップ全体の満足度 (Q1)

ワークショップ全体を通しての満足度については、「満足」または「とても満足」と回答した参加者が過半数を占めました。

評価	回答数
満足・とても満足	7
普通	6
やや満足/不満	0

2. 印象に残った回 (Q3)

印象に残ったワークショップ回については、特に第一回（水沢駅から水沢公園を歩こう）を挙げる意見が目立ちました。

ワークショップ名	回答数
第一回	7
第二回	4
第三回	3
その他（未選択）	1

3. 地域課題の理解度と関心 (Q7, Q10)

ワークショップを通じて、地域の課題理解を深め、まちづくりへの関与意欲を高めていることが示されています。

【注目すべき声】

- 「自分の役割への解像度が上がった」。
- 「何か協力できることがあれば関わってはいきたいと思った」
- 「たくさんの方々と連携をしていくことが必要だと感じた」
- 「行ったことのない地域でも自分事として考えられた」



4. 今後の関わり方 (Q11: 複数回答)

今後まちづくりに関わりたいと回答した参加者が希望する関わり方としては、「イベントの企画・運営」と「店舗・企業としての協力」が最も多く挙げられました。

5. ワークショップの評価 (Q14, Q19, Q20)

実施形式については、時間設定に対する満足度が高く、雰囲気と進行については肯定的な評価が集まりました。

6. 自由意見に見る主な洞察

水沢市街地の可能性や、今後のまちづくりを進める上での課題が明確化されました

A. 感じた可能性・魅力 (Q5)

- 食・個人店の個性: チェーン店ではない個性的な飲食店が点在していること、個人で経営しているお店がそれぞれ個性的で素敵であること、おしゃれなカフェが多いこと。
- 人材と機運: 市民の旗振り役となる人材が複数いることに可能性を感じた。街づくりに関心のある若者もいる。
- カルチャー: 水沢には人もカルチャーもたくさんあり、まだまだ未来がある。
- 建物/場所: 駅前の古い建物の活用次第でプランディングに繋がる可能性がある。

B. 課題・要望 (Q21, Q23 自由意見)

- スピード感と可視化の必要性: 本気で街づくりしたいなら、もっとスピード感があって、わかりやすい変化が必要であり、意見がどう反映されるのかわからなければモチベーションは上がらない。
- 検証の必要性: 以前の中心市街地活性化ビジョン策定時の経験を踏まえ、前回の計画・ビジョンの検証が必要。
- 市民の巻き込み: ほとんどの市民は街づくりに興味がなく他人事であるため、多くの人を巻き込み、大きな街づくりの渦にしていく必要がある。
- 次回テーマの要望: まちづくりの推進における障害、ボトルネックなど、他自治体での事例を取り上げてほしい。具体的な組織づくりのワークショップの開催。

今後の取組について

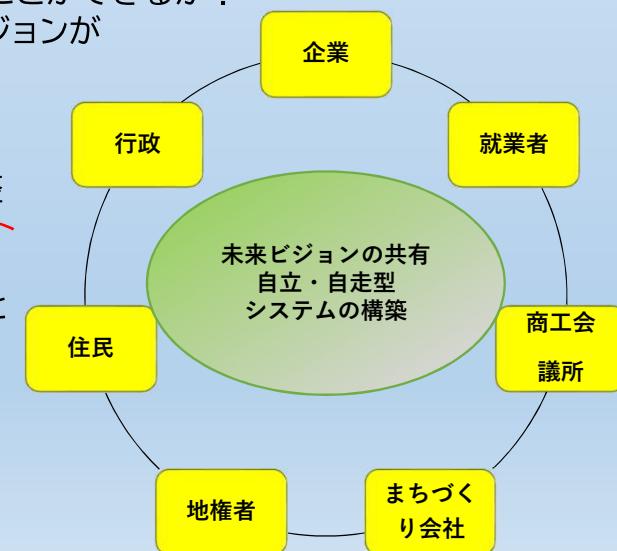
水沢市街地エリアの新たな可能性見つけるシンポジウム、まちづくりワークショップ、アンケートを通じて、多くの若者が水沢市街地の再生に興味を持っていることがわかりました。

過去の駅通りの賑わいの状況を知っている世代からすると、昔のように戻ってほしいという想いはありますが、今の時代のニーズや、若者がここで暮らしたいと思ってもらえるような場所になるためには、過去と同じ手法では再生できません。

新しい変化を起こすためには、**何らかのチャレンジを試みなければなりません**。それは個人個人の想いだけではなく、まちぐるみでチャレンジする環境を作ることが重要です。

奥州市全体の中で、今このエリアに真に求められているのは何か？今まで見えなかつた価値に気づくことができるか？

こういった議論から新しいビジョンが生まれると思います。



今後、奥州市では、水沢市街地エリアの将来像を議論・調整を行うための場「**エリアプラットフォーム**」を構成し、新しいエリア未来ビジョンを策定することを検討します。

引き続き市民の皆さんのご協力をお願いします。